



1318HappyZone ヒマン・オルム希望の家訪問レポート

社会福祉法人神戸市社会福祉協議会 有瀬児童館 田谷 久恵

2010年8月に実施した「韓国健全育成活動事業特派員」事業にご参加いただいた児童館関係者のレポートを今号から掲載致します。今回は、プログラム前日に1318HappyZone（「じどうかん2009夏号」参照）を視察された田谷さんからのレポートをお届けします。

ヒマン・オルム希望の家

ヒマン・オルム(希望の家)は漢川の北側・ソウル大学のすぐ近くの下町にある3階建てのビルです。

1・2階は中高生約35名が放課後に利用する「1318HappyZone」、3階は小学生約20名が利用する「地域児童センター」になっています。地域児童センターに通っていた小学生が、HappyZoneを引き続き利用することが多いようです。利用時間は、中高生が放課後から夜10時まで。小学生は7時までです。スタッフ体制はHappyZone、地域児童センターともに施設長と指導員2名、近隣大学生など多数のボランティアの支援を受け運営されているとのことでした。



▲HappyZoneの皆さんと



◀ヒマン・オルムの外観

熱烈歓迎!

8月16日(月)にヒマン・オルムを訪問しました。指導員のパクさんをはじめ3人の大学生ボランティア、高校生、通訳の方が地下鉄駅まで迎えにきてくれて、ソウル大学の学生街を案内していただきながら施設へ向かいました。

施設に着くと、子どもたちによる「ラップ」での歓迎がありました。これは、放課後を過ごしている施設の先生や友達、自分たちの暮らしへの思いを詩にこめたものでした。「疲れたときには私たちに椅子を用意してくれる。悲しいときには両手をさしのべられる。楽しいときにはみんなで分かち合える、ここで過ごす時間、仲間、先生をとても大切にしている……」という内容で、ここでの暮らしを大切に思い、愛しているという気持ちを詩に書いて、スタッフや仲間への想いが伝わってきました。



▲ラップで歓迎!

施設が企画してくださった中高生約30名との交流会では、「日本の児童館はどん

なことをしているの? 勉強は? スポーツは?」と質問がありました。私が「日本の児童館は、遊びを通じて健やかな成長ができるように0~18歳までのさまざまな支援プログラムがある」などと答えると、「遊びだけ? 勉強の支援はしないの?」と不思議そうな様子でした。

韓国は受験大国であり、中高生にとって目の前にある大学受験の勉強抜きに考えることはできないという様子でした。「遊び」を主体とした日本の児童館のあり方にびっくり戸惑い、日本と韓国の社会情勢や文化の違いを感じました。



▲中高生との交流会

ニム所長の熱い想い

ニム所長は、「貧困家庭の児童は中高生のころから受ける教育が違っていき、それが原因で格差がでてくる。ここでの活動の成果は、勉強や文化活動の支援によって子どもの特性・個性を見つけることができたこと、創造性・自発性を発揮できるようになったことです。ここに来るまでは夢を持つことができなくて、自分の意思を持っていない子もいました。家庭環境が厳しいので成長過程でのさまざまな文化活動や勉強ができず、経験が少なかったのです。この施設で放課後を家族のように過ごして、いろんな体験や支援を受け、その中で自分の希望を見つけて成長して欲しい」と熱く語ってくださいました。

いつまでも熱い想いを!

日本においても、児童を取り巻く環境に格差が忍び寄ってきていると感じます。韓国のスタッフから、「2月の日本でのシンポジウムで、健全育成を図るためには、豊かな人間形成のために『遊びの重要性』を考えていかなければならないと感じた。これからの韓国において、健全育成には豊かな感性を持った指導者の育成が必要であると痛感している」とのお話がありました。

HappyZoneの活動は支援対象者を絞っていることで目標を明確にでき、子どもの変化や成果が目に見えて分かるため、職員やボランティア、そして子どもたちが目標に向かって情熱を持って活動していました。特にボランティアや指導者から受ける影響がとても大きいことを肌で感じました。

この国際交流でお互いに刺激を受けあい、貴重な機会をいただいたことに感謝するとともに、子どもたちを導いていく役割を持った私たち児童厚生員が、ソウルでもらった熱い思い・迫力に負けない熱意を、いつまでも持ち続けていきたいと思えます。カムサハムニダ!